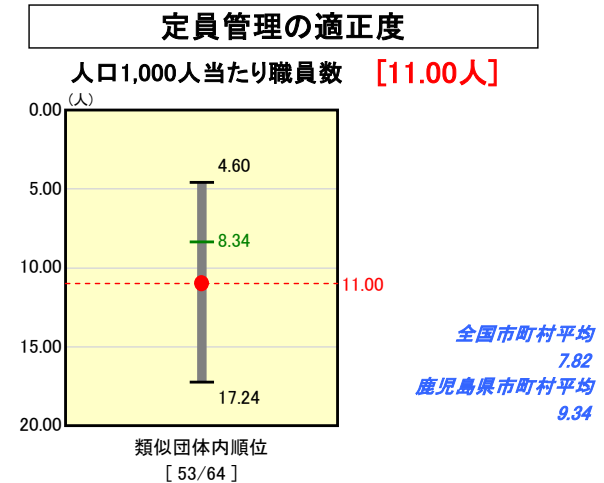
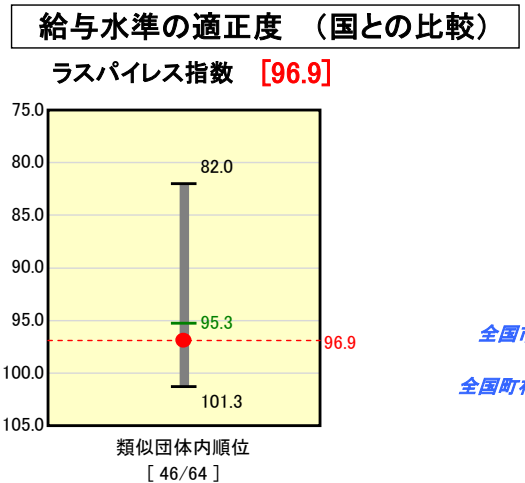
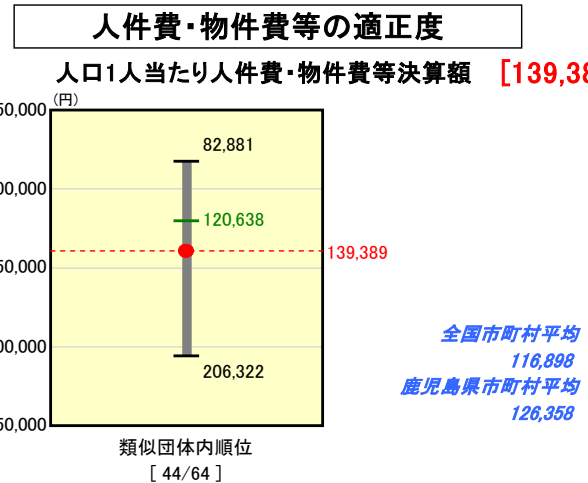
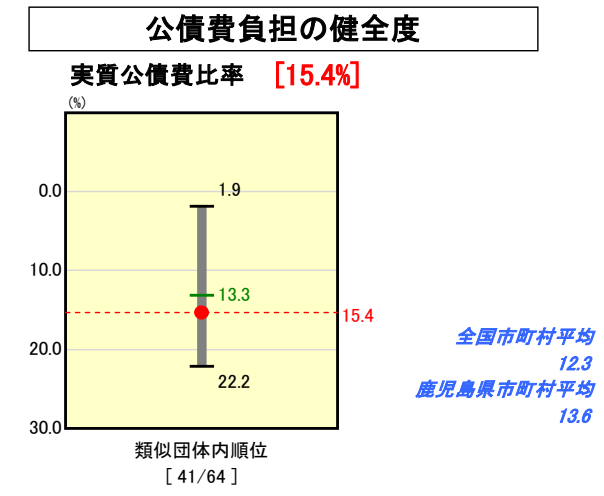
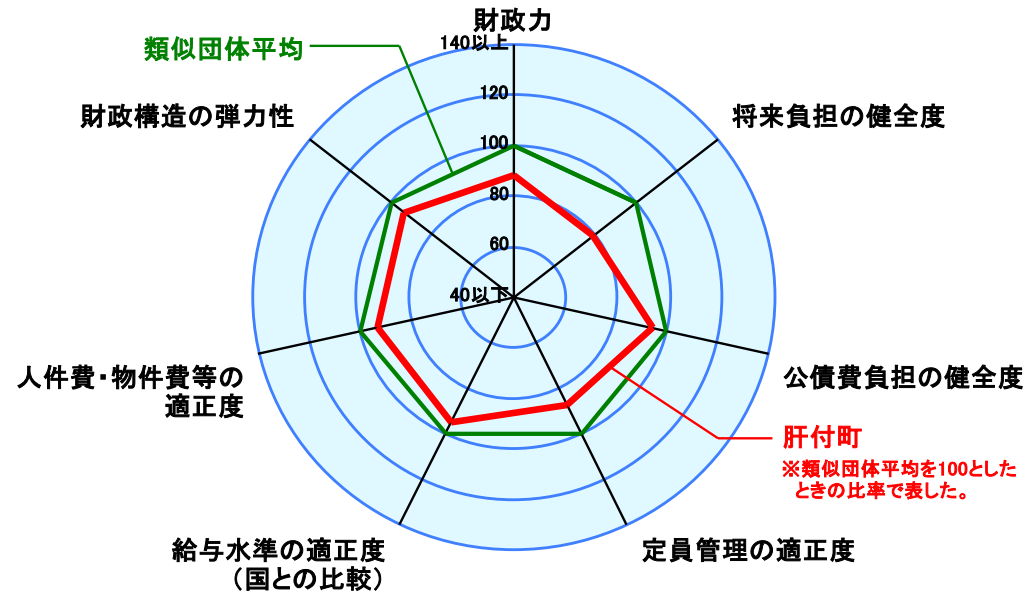
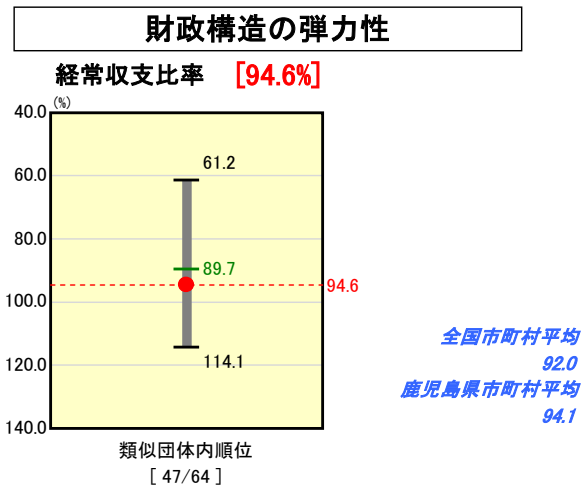
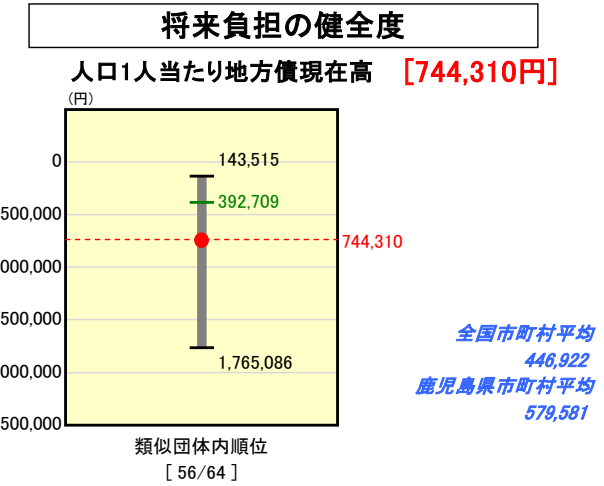
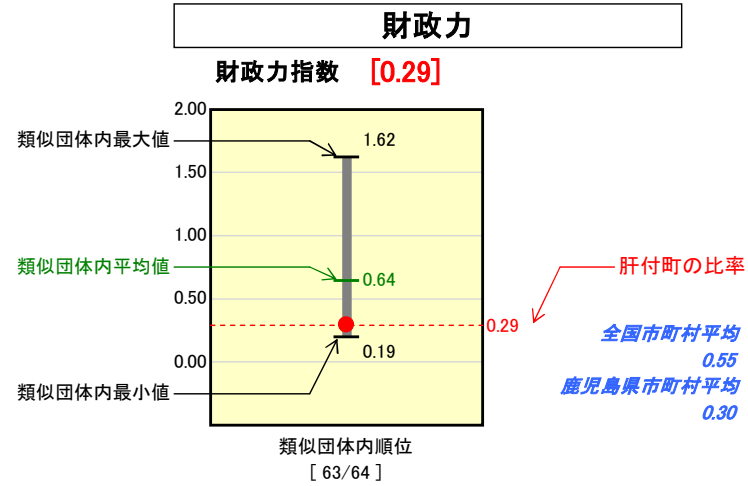


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

鹿児島県 肝付町

人口	18,452	人(H20.3.31現在)
面積	308.12	km ²
歳入総額	10,596,857	千円
歳出総額	10,362,128	千円
実質収支	234,729	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

※財政力指数
類似団体平均を大きく下回っているが、昨年度と比較すると0.1ポイント上昇し0.29となっている。やはり、長引く景気低迷による個人・法人関係の減収、未収金の増加等が原因と考えられる。現在、税の徴収強化(国税局OBIによる助言、指導等)、使用料・手数料見直し等を行っており、さらなる歳入の確保に努める。また、退職者不補充等による職員数の削減による人件費の削減、特に必要な事業を峻別しさらに投資的経費を抑制する等、さらなる徹底した歳出削減に取り組む。

※経常収支比率
昨年度と比較すると1.2ポイント減少し95.8%となっているが、類似団体平均を大きく上回っている。交付税等の動向を見極めつつ引き続き自主財源の確保に努める。歳出については、合併によるスケールメリットが幾分か見られるものの、各経費の節減や行革の推進、職員の定数管理、後年度の負担を考慮した事業の展開を行うとともに、多額の繰出金をうける特別会計側の経営努力の取組を徹底していく。

※ラスパイレース指数
昨年度と比較すると同ポイントの96.9となっている。旧来の給与体系、特別昇給等の実施により類似団体平均を上回っているが、特殊勤務手当等の各種手当の見直しによる給与の適正化に努め、国における給与改革制度を見据えながら、町民の納得・支持を得られる給与体系を構築するとともに、管理職及び人員の適正配置等により業務の効率化を図る。

※実質公債費比率
昨年度と比較すると0.7ポイント減少し15.4となっているが、類似団体平均を上回っている。現在、複合施設、観光施設等の大型投資事業の償還が始まっており平成19年度～平成21年度にピークをむかえるが、今後とも、緊急度、住民ニーズを的確に把握し起債依存型の事業実施を見直し、新規地方債発行の抑制に努めていく。

※人口1人当たり地方債現在高
類似団体を上回っているが、昨年度と比較すると▲13,137円減少し744,310円となっている。上回る、主な要因としては、複合施設(起債額1,377百万円)、観光施設(1,701百万円)等であるが、今後とも、緊急度、住民ニーズを的確に把握し起債依存型の事業実施を見直し、新規地方債発行の抑制に努めていく。

※人口1,000人当たり職員数
類似団体平均を上回っているが、昨年度と比較すると0.21人増加している。平成23年4月1日までの定員について、「地方公共団体における行政改革の推進のための新たな指針」による、今後5年間で4.6%を上回る純減を目標とした「定員適正化計画」に基づき、平成23年4月1日時点で33人(△12.5%)削減を目標とする。

※人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体平均を上回っているが、指定管理者制度の導入等により委託化を進めておりコスト低減を図っていく方針である。